

## 「ふらっと」の活動の評価について

ふらっとステーション・ドリーム（以下「ふらっと」と略す）は、おかげ様で月 1,200 名を超える利用者に支えられ、活動開始から 7 年を経過し、8 年目に入っております。

今、この 7 年を振り返り、活動の評価・検証を行っております。やり方としては、これまでの自己評価ではなく、利用者、スタッフ、近隣団体等、完全な第三者とは言えないまでも、自己とは少し違う視点での評価を、昨年末から年度末にかけて行ってきました。

これは「ふらっと」の希望でもあり、また行政としても「ふらっと」のような団体「居場所」をどう支援していくか、その根拠を明らかにする狙いでもあります。

実際の作業を日本総研の小林主任研究員に依頼し、実行しています。その最終的なとりまとめには少し時間がかかるので、次回以降に回すとして、現時点でもわかってきたことがあります。

その 1 つは、利用者の変化です。はじめのうちはここドリームハイツの住民がほとんどでしたが、現在はドリームハイツ以外の利用者が多くなってきました。2 つ目は、男性の利用者の増加です。具体的な内容及びその理由等は、あらためて報告いたします。

さて、「第三者評価」制度は、指定管理者制度（高齢者施設や保育所等のいろいろな公の施設の管理・運営を N P O 等に包括的に代行させる制度）と合わせて行われてきましたが、第三者評価は、評価そのものが目的でなく、評価を通して「運営の継続的な改善」につなげていくことが目的です。

今回の評価・検証は「第三者評価」ではありませんが、客観的、多角的な視点からの評価でありますので、自分たちにとって新しい「気づき」が得られます。これを新たな機会ととらえ、「ふらっと」10 周年に向かって更なる活動をしていきたいと思っています。

2013 年 4 月 15 日

理事長

泉 一弘